



12月1日は「世界エイズデー」



世界エイズデー（World AIDS Day：12月1日）は、世界レベルでのエイズのまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を目的に、WHO（世界保健機関）が1988年に制定したもので、毎年12月1日を中心に、世界各国でエイズに関する啓発活動が行われています。



令和4年度「世界エイズデー」キャンペーンテーマ

「このまちで暮らしている。私もあなたも。
12月1日は世界エイズデー」

テーマの趣旨

新型コロナウイルス感染症の流行とその対策が長期化する中で、HIV/エイズ対策もその影響を大きく受けてきました。ただし、その影響は負の側面だけではなく、地道な感染症対策の重要性を再認識させることにもなりました。治療の進歩でHIV陽性者の生活は大きく変わり、HIV感染の予防にもその進歩に支えられた様々な選択肢が用意されるようになりました。しかし、現状はそうした変化が正確な情報として十分に伝わっているとは言えず、有効な治療法がなく死に至る病であった時代の認識にとどまっている場合が少なくありません。そのことがHIV感染を心配する人たちを検査や治療から遠ざけ、また、差別や偏見を招く要因の一つになっているとも言われています。

そこで、今年度の「世界エイズデー」キャンペーンテーマは、HIV陽性者の方も陽性でない方もともにこの社会で暮らしていることを伝えるテーマとしました。新型コロナウイルス感染症の影響により、孤立・孤独が他人事ではなくなってきた

いま、ひとりでも多くの人がHIV/エイズのことを自分事として捉え、HIV/エイズに関する検査や治療、支援などの知識を身につける契機とし、正しい知識の普及を通じて、HIV検査の受検促進や差別・偏見の解消につなげていきたいと考えています。

12月1日は世界エイズデー

予防の第一歩は「正しく知ること」

エイズは、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）に感染することで起こる病気ですが、HIV感染＝エイズではありません。

HIVはとても弱いウイルスです。HIVに感染している人と食事をしたり、同じお風呂に入ったり、軽いキスやハグではうつりません。でも、コンドームを正しく使用しない性行為

には、感染のリスクが。また、よく知らない相手との性行為も避けましょう。「たった1回」が、人生に大きな影響を与えるかもしれません。

HIVについて正しい知識を持ち、未来の自分のためにどんな行動をするのがよいか考える。それが、エイズの感染拡大防止にもつながります。

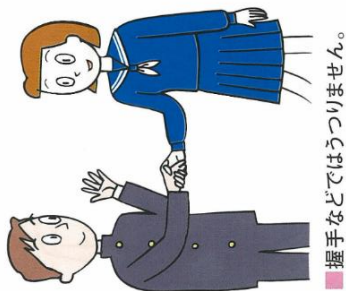
レッドリボン



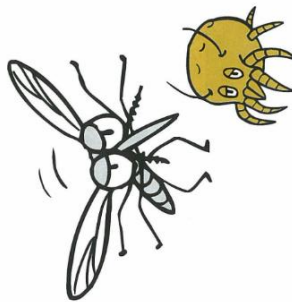
“レッドリボン（赤いリボン）”は、世界エイズデーキャンペーンをはじめ、HIV/エイズに関する運動の世界的なシンボルです。

この“レッドリボン”がエイズのために使われ始めたのは、アメリカでエイズが社会的な問題となってきた1980年代の終わりごろでした。この頃、演劇や音楽などで活動するニューヨークのアーティスト達にもエイズが広がり、エイズに倒れて死亡するアーティスト達が増えていきました。そうした仲間達に対する追悼の気持ちとエイズに苦しむ人々への理解と支援の意思を示すため、“赤いリボン”をシンボルにした運動が始まりました。この運動は、その考えに共感した人々によって国境を越えた世界的な運動として発展し、UNAIDS（国連合同エイズ計画）のシンボルマークにも採用されています。レッドリボンは、あなたがエイズに関して偏見をもっていない、エイズとともに生きる人々を差別しないというメッセージです。このレッドリボンの意味を知り、エイズについてみんなで考えましょう。

「大丈夫、こんなことではうつりません」



■握手などではうつりません。



■カやダなどからはうつりません。
(その理由はQ&Aで確かめてみましょう。)



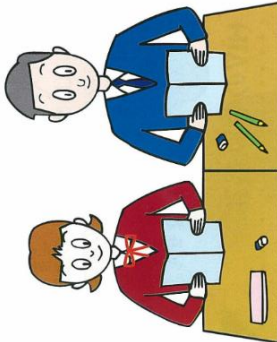
■お風呂やプールなどではうつりません。

HIVの感染力は弱く、感染経路が限られています。
学校などのふだんの生活で感染することはありません。

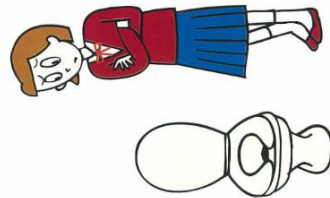
正しい理解が不安を除きます。



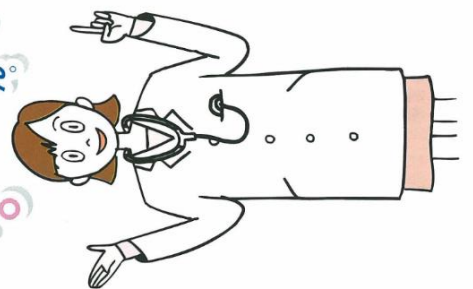
■せきやくしゃみ、だ液、汗、涙などからはうつりません。



■食事や勉強など、ふだんの生活ではうつりません。



■洋式トイレの便座や電車のつり革など、器物からはうつりません。



「HIVに感染すると、どうなるの？」

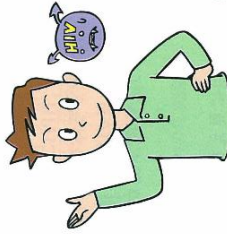
感染と潜伏期
たいていの場合、HIVに感染しても何も症状がありません。このような期間を潜伏期といい、治療しなければ10年前後といわれています。この間は、学校や職場でも感染する前と同じ生活を送ることができます。しかし、無症状の間でも他人に感染する可能性があります。

エイズ

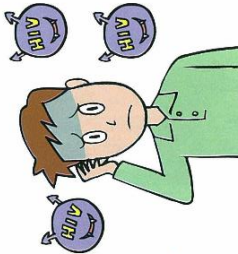
免疫の働きがさらに低下すると、体の抵抗力が一層弱まり、ふだん病気を起こさないような弱い病原体による感染症やがん、神経症状などが現れます。これがエイズの発病です。薬の使用によって発病を遅らせることができようになるようになりました。しかしながら、根本的な治療方法はありません。



感染の有無は保健所等で血液検査をすればわかります。



他の病気と同様、症状の前で早く診断し、早く治療を開始することによって薬の効果が出ます。



エイズに限らず、血液からうつる病気は、いくつか知られています。基本的な習慣として、次のことを身に付けておきたいですね。



注射器など血液が付いているかも知れないものには、触れないようにしましょう。



かみそりや歯ブラシ、くし、タオルなど、血液が付きやすい日用品は、自分専用に使しましょう。



体や衣服に血液が付いたらなるべく早く、洗剤を付けて洗って洗い流しましょう。

